

あおもり漁連

故 植村正治氏 書

甦れ!! 協同組合運動

No.
172



うおっさんと握手する PR センター 一周年記念イベント一番乗りのお客様

CONTENTS

県内系統・関係機関・年頭ごあいさつ	1
全国系統団体・年頭ごあいさつ	9
第35回漁協運動功労者表彰、新漁協の誕生	12
流通 PR センターオープン1周年記念イベント開催	13
ホタテの日記念イベント開催、陸奥湾密漁取締訓練開催	14
2020年度漁協役職員研修会開催	15
漁船海難事故防止活動の実施、第48回「海をきれいにする運動」入賞作品紹介	16

2021. 1

資源・金融・共済の三本柱推進

令和三年 県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

松 下 誠四郎

2021年の新春を迎え、年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員はじめ関係の皆様には、常日頃より当連合会の業務運営につきまして、格別なるご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外食需要の冷え込みや、国内流通の鈍化、輸出停滞等により魚価の低落から漁業・漁協経営は大きな不安と逼迫した経営状況が続き、大変厳しい年となりました。

本県では、ここ数年好調に推移してきたホタテ養殖業がホタテ貝の付着物による作業効率の低下や食害によるへい死により、大幅な減産を余儀なくされました。

また、漁船漁業においても主力のスルメイカ・サケの不漁やクロマグロ資源管理に伴う収入の減少により、総じて浜では疲弊した状況が続いております。

このような状況の中、70年ぶりの改正漁業法が昨年12月に施行され、その実践に向け走り出したところがございますが、新たな資源管理システムの構築や漁業の成長産業化に向けた水産

政策の改革の中には、漁業者自らが所得向上を目指す取組みに様々な支援が組み込まれております。

本会では、会員漁協へ新たな制度・事業の積極的な活用を推進し、浜の構造改革による競争力強化を図り、効率的かつ安定的な漁業経営の実現を目指して参ります。

また、漁協の組織・基盤強化対策につきましては、昨年12月1日に鱈ヶ沢漁協と赤石水産漁協の合併による「鱈ヶ沢町漁協」、そして下風呂漁協、易国間漁協、蛇浦漁協の合併による「風間浦漁協」の2つの漁協が新たに誕生しました。

本県の合併基本計画につきましては、今年3月で期限を迎えることから、今後の方向性を示し、(公社)青森県漁協経営安定対策協会、関係機関と連携を図りながら、更なる本県漁協の組織・経営基盤強化に取り組んで参ります。

漁政対策につきましては、近年主力魚種であるクロマグロの資源管理において、漁業者個々の割当数量の調整に課題があり、いまだに浜の混乱を招いている状況です。今後TAC対象魚種が拡大することから、浜の声を関係機関にしつ

かりと届け、資源管理に努める漁業者が安心して経営を継続できるよう適正管理による資源回復に努めるとともに、減収分への支援をはじめとした対応を訴えて参ります。

また、数年来のスルメイカ不漁が漁船漁業に大きな影響を与えている中で、わが国EEZ内における外国漁船の違法操業は、本水域で操業する漁業者の安全を脅かすとともに、乱獲によつて、スルメイカ資源の枯渇につながる事態を招く状況にあります。

本県主力魚種を守るためにも、資源の確保ならびに安全操業について万全を期すよう、国へ強力に働きかけをして参ります。

福島原発におけるアルプス処理水の取り扱いに係る問題は、本処理水が海洋放出されることになれば風評被害の発生は避けられず、その影響は極めて甚大なものとなるのが憂慮されます。

これまでの漁業者の努力が水泡に帰さないよう、上部団体である全漁連や関係機関と密に連携を図り、漁業者の理解が十分得られる対応となるよう、国に対し慎重な判断を求めて参ります。

青森県版アクションプラン(2020～2024年度)の柱の一つである販売事業改革につきましては、魚価・漁業所得向上への取組みの一環として、従来の販売網の強化、新規販路開拓に加え、本県水産物の素晴らしさを発信するための流通拠点となる「JF青森漁連流通PRセンター」が稼働しました。

当センターでは魚価向上にむけ、各浜の魚介

類を集めた水産フェアの定期開催や、JFGグループが運営する「ギョギョいち」参画によるネット販売ならびにSNSを通じての情報発信等にかかる取り組みを推進しております。
また、当センターは、浜から旬な素材を持ち込み販売・PRできる参加型事業施設としての

面も兼ね備えておりますので、漁業者自らが進める浜の構造改革の足がかりとして活用していただければ幸いです。
以上、我々役員一同、浜の「魚価・漁業所得の向上と、負託に応えられる組織づくり」を目指し、邁進して参る所存でございますので、皆様

の更なるご協力の程よろしくお願い致します。
結びに、皆様のますますのご健勝とご多幸ならびに豊漁と海上安全をご祈念申し上げ、併せて救命胴衣の着用をお願い申し上げます。
ご挨拶いたします。



青森県農林水産部
水産局長 松坂 洋

明けておめでとうございます。

本県水産業の振興と発展に御尽力いただいている皆様に謹んで新春の御挨拶を申し上げます。
昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大が、世界的に人や物の流れを停滞させ、本県においても、水揚げされた水産物の魚価が高級魚を中心に低迷し、ホタテガイについては、一昨年末で、5年連続で100億円を超えていた生産金額が、約91億円にとどまったのをはじめ、クロマゲロやヒラメなどの市場価格も低下するなど、大きな影響を受け、この感染症への対策が中心となった1年であったように感じています。
また、国が約70年ぶりに漁業制度を抜本的に見直し、新たな資源管理方法の導入などを柱とした改正漁業法が昨年12月1日に施行されました。本県においても、これに併せて、青森県の

漁業調整規則の改正などを行ったところで、今後は、改正漁業法に基づく資源管理の新たな対象魚種や管理方法も示されることから、漁業者の方々をはじめ関係団体の皆様と情報を共有し、本県漁業への影響が最小限となるよう、将来を見据えて取り組んでいく必要があるものと考えています。
このような中、県では、第四期「攻めの農林水産業」推進基本方針により、労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産を施策の柱の一つに位置づけ、資源管理型漁業やつくり育てる漁業、漁港・漁場などの水産基盤の計画的整備について継続して進めていくこととしており、本県の水産業が今後とも、地域の産業・経済を幅広く支える重要な基幹産業として持続的に発展していくよう、水産業に携わる皆様と一丸と

なって、各種施策に取り組んでいきます。
特に、人口減少と高齢化が進む中で、漁業においても大きな課題となっている担い手の確保については、県内での漁業就業フェアや漁業体験教室等の開催等により、本県漁業への就業者を一人でも多く確保できるよう、積極的に取り組んでいます。

また、漁業生産の安定に向けて、資源管理型漁業については、TAC制度に基づいた、漁業者への漁獲量の適正管理について指導・調整を引き続き行っていくほか、つくり育てる漁業については、ヒラメ、サケ、サクラマスなどの種苗生産・放流に加えて、新たな対象魚種の取組も推進したいと考えています。
関係者の皆様におかれましては、依然として新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、その対応が必要な状況であります。より一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。
結びにあたり、皆様のますますの御健勝と御繁栄、そして操業の安全を心からお祈りし、新年の御挨拶いたします。



青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長 西山 里一

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、青森県の漁業者の皆様並びに漁協系統関係者の皆様に謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年の我が国の経済情勢は、未だ収束する気配のない新型コロナウイルスによる感染拡大とともに大きく停滞しており、特に外出の自粛要請などによる影響は、飲食店業を始めとするサービス業に大きな打撃を与え、その結果、一次産業においても価格の下落などの影響が顕著に表れております。

一方、金融情勢においても、新型コロナウイルスによる感染拡大の影響は大きく、与信先の経営状況の悪化による貸倒引当金の増加は、昨今のマイナス金利による減益に追い打ちをかける形となり、大方の金融機関では最終損益が減益または赤字となるのではないかと危惧しております。

次に、本県の漁業につきましては、5年連続100億円の大台を突破していたホタテ漁業は、近年の高値が一息ついたところに新型コロナウイルスによる影響が生じ、誠に残念ながら6年連続大台突破とはなりませんでしたが、鮮魚類につきましても、主力魚種であるス

ルメイカを始め、多くの魚種において漁獲量が落ちこんでいるところへの新型コロナウイルスによる影響は甚大であり、非常に厳しい漁業経営を強いられております。

さて、当連合会の経営状況ですが、令和2年11月末で貯金残高は59億42百万円、貸出金残高81億43百万円となり、概ね順調に推移しております。これも一重に皆様のご支援の賜物と感謝いたしております。

貯金業務につきましては、令和2年度末残高584億円達成を目標として、JFマリンバンク懸賞付定期貯金を柱に貯蓄推進を行っております。

貸出業務につきましては、制度資金や漁業経営アシスト資金を活用した設備資金、住宅ローンをメインとした生活資金などに加え、新型コロナウイルスの影響により資金繰りが悪化した皆様に対し、マリンセーフティネット資金などの商品を取り揃え、融資推進を行っております。また、昨年に引き続き「水産業競争力強化緊急事業」における漁船リース事業や機器導入事業などで皆様のお力になれるよう、行政、関係機関と連携の上、対応していく所存でございます。

なお、当連合会では地域金融機関としてお客

様からの信頼性確保に努めることと漁業者の皆様方に浜の金融機能維持・継続することを使命として、①マネー・ローリングの防止及びコンプライアンスの徹底 ②JFマリンバンク中期事業推進方針への取組み ③健全性確保の取組み ④東日本ブロック広域信漁連合併への取組みを重点施策として掲げ、鋭意実践しているところでです。

特に東日本ブロック広域信漁連合併への取組みにつきましては、当連合会はJFグループの一員として、地域に密着した漁業金融機能を提供することを通じて、皆様の漁業経営や生活を支える役割を担っており、今後もその役割を果たしていくことが使命であることから、経営基盤並びに財務基盤を一段と強固なものとし、ひいては漁業金融機能の一層の強化と、持続可能なビジネスモデルを確立することをもって、我が国漁業と地域の発展に向け更なる役割発揮を目指すために、皆様のご理解のもと、令和2年10月30日に広域合併参加地域の信漁連による合併契約書の締結が行われ、令和3年4月1日を予定とする「東日本信用漁業協同組合連合会」を設立することになりました。皆様には今後とも安心して当連合会をご利用いただけるよう鋭意努力して参りますので、これまで同様宜しくお願いたします。

結びといたしまして、皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念いたすとともに、JFマリンバンクへの変わらぬご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



全国漁業信用基金協会 青森支所

担当理事

奈良岡 修一

新年おめでとうございます。

令和三年の輝かしい新年を皆様とお迎えすることができましたことを大変うれしく存じます。

日ごろ当協会の業務につきまして、県、市町村、関係機関より格別の御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当協会は、将来的に安定的かつ継続して金融を支え、浜の負託に応え、今以上の経営基盤の強化・安定を図るため、昨年十月一日に全国漁業信用基金協会と合併をいたしましたところ

であります。

しかし、最近の漁業を取り巻く情勢は、漁場・資源環境の劣化、漁撈コストの高騰、そして、漁船の高船齢・老朽化、更には、漁業者の高齢化や就業者の減少等により、依然として厳しい状況が続いております。

このような時こそ、漁協並びに漁業者の皆様そして私ども「系統団体」が一丸となり、その役割を発揮することが必要と考え、当協会としまして関係機関と連携し、厳しい環境下にあ

る漁業者の経営並びに生活の維持・安定を持続的に図るため、国の事業である、T P P 関連対策に係る水産業の競争力強化を促進する、「競争力強化型無保証人資金」、そして、漁船の適切な更新を促進する「浜の担い手漁船リース緊急事業」に係る金融支援事業に加え、本県独自の「沿岸漁業推進関連資金」や後継者対策に資するため漁家環境の向上を目的とした「事業関連住宅資金」、更に今年度は新型コロナウイルス対策沿岸漁業推進関連資金を創設し、保証料の全額を助成する等の対策をとっており、引き続き積極かつ的確に推進して参る所存であります。

結びに、皆様のますますの御繁栄と御健勝並びに海上安全をお祈り申し上げます、新年の御挨拶といたします。



日本漁船保険組合 青森県支所

運営委員長

福島 哲男

新年明けましておめでとうございます。

令和三年の新春を迎え、組合員、漁業協同組合、水産関係団体の役職員の皆様から新春のお慶びを申し上げます。

令和二年を振り返って見ますと、中国・武漢に端を発した新型コロナウイルスは全世界において急激な勢いで感染拡大し、経済は長期にわたり停滞し大幅な景気の落ち込みとなりました。そのような中、本県漁業界においても水揚げの減少、新型コロナウイルスによる魚価安、後継者不足に加え、人身が伴う漁船海難が多発

するなど、非常に厳しい一年でありました。

昨年、保険料率の改正が行われ、漁船保険及び漁船船主責任保険において、危険率を基にして全体的に引下げを実施しております。

さらに、水産庁漁政部漁業保険管理官の指導のもと、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響を受けた組合員に保険契約に関する特例措置を講じ、こうした措置が今後とも必要となる場合があることを想定し、保険約款の改正も行いました。

又、事故防止事業を拡充して実施しております。

すが、昨年も無事戻事業、整備点検事業、船舶自動識別装置助成金交付事業を通じて、加入漁船に係る事故の未然防止に積極的に取り組み、漁業経営の安定に資するよう、漁船保険事業のさらなる拡充に努めて参りました。

今後とも漁船保険は、漁船漁業のセーフティネットとしての役割を果たすため、すべての漁業者に安心を提供できますよう未加入船の加入推進に鋭意取り組んで参ります。

又、漁業者のための漁船保険たる理念のもとに、漁業者の信頼に応えられるよう、迅速な事故対応や事務処理の効率化に努め、一層の保険サービスの向上に役職員一丸となつて取り組んで参りますので、関係各位のなご一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終りに、新型コロナウイルスの終息と皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



青森県漁業共済組合

組合長理事 二津谷 廣 明

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
新春にあたり、皆様の本年のご多幸を心より
ご祈念申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス
感染症が世界規模で猛威を振るい、我が国でも
年明けから感染拡大による大きな影響を受け、
緊急事態宣言の発令や東京オリンピック・パラ
リンピックが延期に追い込まれるなど、これま
で経験したことがない事態が生じ、非常に窮屈
な生活を強いられる我慢の一年となりました。
水産業界においても水産物の急激な需要の低
下、魚価の下落等、漁業経営はもちろん、本県
水産業に関わる多くの方々や漁村地域に現在も
なお多大な影響を及ぼしています。さらに、環
境異変等を主因とした不漁が恒常化しており、
するめいか、さけ等の本県主要魚種でも不漁が
相次ぐ厳しい一年となりました。

このようななか、令和2年度の「ぎよさい」
と「積立ぶらす」の支払いは、本県のみならず
全国規模で過去最高となった令和元年度を大き
く上回る実績を予想しており、漁業経営を守る

「ぎよさい」と「積立ぶらす」が果たす重要な
役割が改めて広く認識され、漁業者からの期待
はかつてないほど高まっております。また、昨
年4月から新たなスローガン「令和の備えも
『ぎよさい』と『ぶらす』」を掲げて普及推進
運動を展開しており、本県漁業者のセーフティ
ネットとしての機能を発揮すべく、引き続き補償
力の向上と普及拡大に努めて参ります。

今年には甚大な被害をもたらした東日本大震災
から10年を迎え、延期となった東京オリンピッ
ク・パラリンピックが開催される予定です。こ
れを契機に水産物の需要が高まることを期待す
るとともに、一刻も早く新型コロナウイルス感
染症が収束することを切に願うばかりであり、
この度の改正漁業法の施行を受けて、「漁業収
入安定対策事業の機能強化と法制化」が引き続
き検討される予定ですので、漁業共済団体とし
て漁協系統・漁業者団体の皆様と緊密に連携
し、今後も漁業者の方々に自然災害対策・経営
安定対策として「ぎよさい」と「積立ぶらす」
を安心して活用していただけるよう、より良い

制度の実現に向けて働きかけて参ります。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染
症の脅威のなか、「ぎよさい」と「積立ぶらす」
にご理解を賜りご加入頂いている皆様、また、
普及拡大にご協力頂いている漁業関係者の皆様
に厚く御礼申し上げます。新たな一年が災害の
ない豊漁・豊作となることを祈念いたしますと
ともに、漁業経営を守る「ぎよさい」と「積立
ぶらす」のより一層の浸透・定着に努めて参り
ますので、本年も皆様の変わらぬご支援ご協力
を賜りますようお願い申し上げます。





農林中央金庫青森支店

支店長 錠 理 一

県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体の役職員の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

また、漁協系統事業全般にわたる皆様の日々のご努力に対しまして、深く敬意を表しますとともに、私ども農林中央金庫の業務につきまして、平素より特段のご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症による影響を受けられました皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて昨今の漁業情勢につきまして、本県では主要魚種であるスルメイカやサバ、サケを筆頭に深刻な不漁が長期化していること、更にはホタテやマグロ等の魚価が下落傾向にあることから、非常に厳しい環境が続いております。

そのような中、国内漁業におかれましては、2020年12月1日より約70年ぶりに漁業法が大改正されました。改正漁業法は、魚種ごとの資源評価に基づく漁獲可能量(TAC)や漁業者に対する個別割り当て(IQ)を軸とする新たな資源管理システムが導入されるなど、国内

漁業のあり方に大きな影響を及ぼすことが予測されております。

世界の経済情勢に目を向けますと、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年は大変厳しい一年となりました。そうした中で、米国ではゼロ金利政策と量的緩和政策を再開するなど大規模な金融緩和策を実施するほか、次期大統領バイデン氏がグリーンエネルギー投資を通じた景気・雇用の立て直しを打ち出し、实体经济の回復を急いでおります。

日本経済においては、2020年に菅政権が誕生し、前政権の政策が継続となる一方、デジタル庁創設や環境投資を促進するための基金創設など経済と環境の好循環を成長戦略とし、景気回復を図ることとしております。

金融業界においては、マイナス金利が長引くなか、地方銀行再編の動きが取りざたされる等、金融機関を取り巻く環境が一層厳しさを増しています。そのような中、漁協系統組織においても経営基盤強化を目指し、令和3年4月に東日本地区の11信漁連が合併する契約を締結

し(愛知県信漁連は2022年4月1日より合流)、東日本信漁連の設立に向けて準備を進めております。

JFマリンバンクとしては、浜の皆様がいかなる時も安心して生活いただけるよう持続可能な漁業金融機能を提供することや、浜と地域社会の発展への貢献を通じて浜の暮らしを守ることを果たすべき使命だと捉えております。

私ども農林中央金庫といたしましても、引き続き、協同組織の一員である皆様方と連携をとりつつ、「浜の活性化」に向けてお役に立てますよう、万全の取組みを行ってまいります。

最後になりましたが、本年の豊漁と、県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統役職員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





つくり育てる漁業日本一 トラウトサーモンとヒラメ 縁起の良い「青森の紅白」で 景気の良い新年を！



一、はじめに

近年、多くの魚種で漁獲量減少傾向が大きな課題となっている中、公益社団法人青森県栽培漁業振興協会によるヒラメ栽培事業は漁獲量日本一回復等大きな成果を上げ、国内先進事例として高く評価され、昨年節目となる三十周年を迎えることができました。

さらに、昨年は、回転寿司等で若い世代を中心に人気が高まっているトラウトサーモン（ニジマス）の海面養殖も大きな躍進が見られ、公的全国統計はないものの、本県の生産量が日本一と見込まれます。

このように本県のつくり育てる漁業日本一が二魚種となったことは喜ばしい限りであり、また、刺身ではご当地メニューにおいても、トラウトサーモン・紅、ヒラメ・白、盛り合わせでは紅白となり、正月早々、誠に縁起の良い組み合わせとなります。

昨年は新型コロナウイルスの影響で宴会の自粛や魚価の低迷等深刻な事態となりましたが、令和三年丑年は縁起の良い「青森の紅白!!」の積極的な発信や活用で新型コロナウイルス不況を吹き飛ばし、浜から街まで景気の良い一年にしましょう。

これを機会に、より多くの方々に、本県が誇る二魚種について、つくり育てる漁業の概要

等、ご理解を深めていただければと思います。

それでは、「紅白歌合戦」ならぬ、「紅白ネタ合戦」のはじまりはじまり。

二、白組・ヒラメ!!

(ヒラメ栽培漁業事業化の経緯)

本県のヒラメは品質が高く評価され、昭和五十一年に一千五百トンの漁獲量を記録し、昭和五十八年までの間、八年連続日本一を誇っていました。その後減少に転じ、昭和六十年には五百トン台まで大幅に減少し、栽培漁業事業化の必要性が高まったことを受け、昭和六十二年に「ヒラメ栽培漁業計画」が策定され、社団法人青森県栽培漁業振興協会（平成二十一年、公益社団法人に移行認定。以下「栽培漁業振興協会」と言う。）が設立されました。

(「県の魚ヒラメ」と栽培漁業の関係)

栽培漁業振興協会の設立を機に昭和六十二年度を「栽培漁業元年」と位置づけ、漁業者の意識の高揚を図り、水産業の振興に資するため、昭和六十二年七月二十日（海の記念日）に県民の象徴として『県の魚』に制定され、栽培漁業元年となる昭和六十二年度からヒラメの栽培漁業化が始まったこと、

式、ヒラメが栽培漁業を代表する魚種であること、本県のヒラメ生産量が全国トップクラス

であり、県内すべての沿岸海域で漁獲され、県を代表する魚種となつてのこと。から、ヒラメが選定されました。

(全国豊かな海づくり大会開催とヒラメ栽培事業開始)

平成二年七月二十二日、三沢漁港において、第十回全国豊かな海づくり大会が開催され、天皇陛下から「青森県においては、これまで、ホタテガイ、アワビ、サケなどの栽培漁業に力を注がれてきましたが、今年からは、さらに『県の魚ヒラメ』の栽培漁業にも取り組まれているとのことであり、今後、良い成果が得られるように期待しています。」等のおことばを賜り、ヒラメ稚魚等が放流されました。本県のヒラメ栽培事業は、同大会を契機に同年、全国に先駆けて第三セクター方式（栽培漁業振興協会運営）・受益者負担方式（漁獲金額の定率）によるヒラメ稚魚大量生産・放流事業として、資源管理（全長制限等）とともに開始されました。

(ヒラメ栽培事業の成果等)

本県のヒラメ漁獲量は、平成元年に約二百トンまで落ち込んでいましたが、ヒラメ栽培事業開始後、回復傾向となり、平成七年以降一千トン程度の年が増え、平成三十一年・令和元年までの三十年間で一六年間日本一となりました。この取組や成果は、平成九年の漁業白書、平成十三年の小学校社会教科書等で紹介され、平成十一年に福島県相馬市開催された第十九回全国豊かな海づくり大会においては栽培漁業振興協会が栽培漁業部門の大会会長賞を受賞、平成二十四年には栽培漁業振興協会職員が「ヒラメ放流用種苗の大量安定生産技術の開発」により

民間部門研究開発功績者表彰で農林水産大臣賞を受賞し、技術面でも高く評価されました。

平成二十三年には鱈ヶ沢名物「ヒラメのヅケ丼」、平成二十九年には「東通天然ヒラメ刺身重」が誕生し、ご当地メニューとして高い人気を集めており、平成三十一年には浜市場みなとつと「漁師食堂鮮八」での「ヒラメ漬丼」提供開始が注目されました。本県のヒラメ栽培事業は開始直後バブル経済崩壊の影響による魚価低迷・低金利に伴う負担金・資産運用益の大きな減少等非常に厳しい事業運営環境が続いた中、昨年三十周年を迎えることができ、今後もヒラメ漁獲量の維持安定に向けて効率的な事業運営による継続が求められています。

三、紅組・トラウトサーモン!!

(本県海面サーモン養殖の草分け：海峽サーモン)
平成元年、大畑町では、スルメイカ来遊量の減少等により漁業経営が厳しくなった中、「スルメイカを待つて獲る漁業」から「つくり育てる漁業」へ転換しなければいけないという先進的な考えを持ったイカ釣り漁業者や定置網漁業者らが中心となって、「大畑さけ・ます養殖研究会」を設立し、「海峽サーモン」の養殖に取組み始めました。「大畑さけ・ます養殖研究会」は平成十四年に一旦解散し、平成十四年に新たな体制として「北彩漁業生産組合」を設立し、現在に至っています。台風や爆弾低気圧、トド等による数多くの被害を克服し、多くの加工品製造にも力を入れ、事業強化に努めた結果、近年では、約百トンまで生産量が増えました。

昨年は新型コロナウイルス感染対策のため中止となりましたが、平成六年以来開催されてき

た「大畑海峽サーモン祭り」は地域イベントとして定着し、多くの観光客が集まります。

(海外技術導入により大規模展開：青森サーモン)
デンマークで長年実施してきた養殖事業のノウハウを有する(株)オカムラ食品工業(青森市)は、平成二十六年に深浦町、弘前大学と連携協定を締結し、同町で試験養殖を開始し、平成二十九年にはグループ会社となる日本サーモンファーム(株)を設立しました。平成三十年には新深浦町漁協(北金ヶ沢海面養殖場)と深浦漁協(深浦海面養殖場)、平成三十一年には竜飛今別漁協(今別海面養殖場)と三厩漁協(三厩海面養殖場)が区画漁業権を取得し、日本サーモンファーム(株)が組合員となり、養殖を行っており、昨年の生産量は七百トン以上と見込まれます。陸上の種苗生産、中間育成から、海面養殖まで一貫して行っています。

(トラウトサーモン王国誕生)

国内海面養殖のサーモンは、ギンザケとトラウトが多く、他にサクラマスもあります。昨年本県のトラウト生産量は八百トン以上となり、公的全国統計はないものの、ほぼ全国一位と思われる。昨年は、淡水養殖用ですが、地方独立行政法人青森県産業技術センター内水面研究所が開発した「青い森紅サーモン」もデビューし、大きな話題となりました。海面養殖生産量日本一、内水面の新品種デビュー、青森県がトラウトサーモン王国として知れ渡るの間もなくと思われれます。

四、結びに

近年、多くの魚種の漁獲量が減少している中、

トラウトサーモンやヒラメのように、つくり育てる漁業により生産量を増加・維持する取組みの推進が強く求められており、地元での利活用促進により経済効果を高めることも重要です。

すでに、お気づきかと思いますが、「青森の紅白!!」(刺身盛り合わせ)について、他のつくり育てる漁業ではイクラ(サケ)とホタテ、つくり育てる漁業に限定しなければマグロとマダイ、ウスメバル、スルメイカ、ヤリイカ等も考えられ、今後各地で大いに盛り上がり、景気回復や魚価向上につながるよう強く祈念いたします。

(文・公益社団法人青森県栽培漁業振興協会

業務執行理事 二木 幸彦)



平目とサーモン
青森の紅白



令和三年 全国系統団体 年頭ごあいさつ



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 岸

宏

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、昨年は、これまでのJFグループ系統運動の中でも経験したことのない厳しい1年でした。従来と異なる回遊行動や資源の減少等による記録的不漁、新型コロナウイルスの感染拡大等を受けて、浜では産出額が落ち込み、生産の基盤となるJFの経営においても売上高、営業利益が減少し、影響等の長期化が懸念されております。

そのため、JFグループでは、漁業者が安心して生産活動を営み、産地市場をはじめJFの経営を安定・継続していくことを基盤として、水産政策の改革を自らの課題として実践していくために、追加経済対策の確立を関係要路に

強く要請し、その結果、要望事項を網羅する3,065億円と3年連続で3,000億円を超える予算を勝ち取ることができました。ここに改めまして、会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。

本年は、昨年12月の改正漁業法の施行を受け、わが国漁業の成長産業化に向けた本格的な改革がいよいよ始まります。改革を成功させるためには改革の実践者である浜の漁業者が理解し、納得することが重要ですので、海面利用制度や新たな資源管理などの具体的実践にあたっては、漁業者・JFグループが国や都道府県とこれまで以上に十分な協議を行ったうえで、一体となって取り組み、水産政策の改革が実効性あるものとなるよう努めて参ります。

本年度から取り組んでいるJFグループの運動

方針にかかるアクションプランにおいても、資源管理を前提とした循環型漁業の構築を目指し、漁業者の取り組みをJFが支えるべく、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革などに取り組み、浜プランの後押しや浜の構造改革を実現して参ります。また、昨年開設した産直通販サイト「JFおさかなマルシェギョギョいち」を活用していただくことで、コロナ禍で消費が落ち込んだ国産魚介類の消費拡大の一翼を担って参ります。

依然として、外国船による違法操業問題、震災復興などの課題が山積しておりますが、漁業者が長きにわたり希望を持って漁業を営めるよう今後も鋭意活動していく所存です。

会員をはじめ、関係者の皆様におかれましては、これまで以上に英知と総力を結集していただき、漁業の成長産業化に向けた浜の構造改革への引き続きのご理解・ご協力を頂きたくお願い申し上げます。

最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



全国共済水産業協同組合連合会

代表理事会長

福原正純

おかげさまで70周年

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、浜の皆様にご高配を賜わり、平素よりJF共済に格別のご高配を賜わり、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、台風等の災害および新型コロナウイルス感染症等により被害に遭われた全国各地の漁業関係者ならびに地域住民の皆様に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染拡大という予期せぬ甚大な災いが世界中で猛威を振るい、急速に冷え込んだ需要や魚価の低下に加え、頻発する自然災害、人口の減少や高齢化に伴う漁業従事者の減少、地球温暖化はじめ海洋環境の変化などによる不漁、不安定な国際情勢など、JF共済にとってはますます厳しい状況が続いております。

また、昨年12月1日には改正漁業法と改正水協法が施行され、漁業は大きな変革期を迎えました。JF共済もこの動きに対応し、果たすべき役割を全うしてまいります。

JF共済は今年1月、創立70周年を迎えます。思い起こせば、漁業者からの一通の手紙をきっかけにスタートしたJF共済は、浜の皆様や各地域のJFのご協力によって、将来想定されている大規模自然災害にも万全を期す組織にしていたできました。これからも、「組合員に万全な保障を提供し、付加掛金収入で漁協経営を守り、それにより食料産業である漁業を守る。」といったJF共済の理念を胸に刻み、一歩ずつ前進してまいります。

2020年度からは「浜の安心を未来へ」ひろげよう共済の輪「JF共済3か年計画」を開始し、JF共済をより安心して利用いただくため、全漁家を訪問し、保障点検をしながら生涯生活保障設計を提案する「浜のあんしんサポート運動」を展開し、JF共済の輪の拡大を目指し、取り組んでまいりました。2021年度は70周年を機に、浜の皆様のニーズにより応えていくため、これまでJF共済で保障できていなかった介護分野を中心に、新しい共済の開発を進めてまいります。こうした取組みを通じ、最優先課題である事業量目標の達成に向け、各都道

府県のJF共済推進本部を中心に、取り組んでまいります。また、15年ほど前に打ち出した共水連マネジメント改革実施大綱を見直し、JF事務負担の軽減と利用者サービスの向上を目指す業務改革と、共水連内部のガバナンス強化を目指す組織管理改革の2本建てを進めていくこととし、着実に実行してまいります。浜の一年が明るく賑わいますよう祈念しますとともに、JF共済に引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。





謹賀新年



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長

松下 誠四郎

副会長理事

南谷 雅人

専務理事

熊木 正徳

理事

三津谷 廣明

〃

二木 春美

〃

山口 隆治

〃

富田 重基

〃

坂井 幸人

代表 監事

岡沼 明見

監事

山本 幸宏

〃

工藤 徹

ほか職員一同

青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長

西山 里一

ほか役員一同

全国漁業信用基金協会 青森支所

担当理事

奈良岡 修一

ほか役員一同

日本漁船保険組合 青森県支所

運営委員長

福島 哲男

ほか役員一同

青森県JF共済推進本部

本部長

三國 優

ほか役員一同

青森県漁業共済組合

組合長理事

三津谷 廣明

ほか役員一同

(一社)青森県漁港漁場協会

代表理事

越善 靖夫

ほか役員一同

第35回 漁協運動功労者表彰

全漁連の2020年度漁協系統功労者が決定し、本県から漁協運動功労者として、百石町漁業協同組合代表理事組合長の木村慶造氏がその功績を認められ受賞されました。

受賞者



百石町漁業協同組合

代表理事組合長 木村 慶造

< 功績内容 >

平成6年より漁協運営に携わり、平成23年からは代表理事組合長として漁業後継者の育成にも積極的に取り組み、永続的な漁業経営を図るとともに、漁協の発展に向けて舵取りをした。青森県漁業共済組合の代表監事にも就任しており、本県水産業の振興・発展に努めた功績は誠に大である。

新 漁 協 の 誕 生

風間浦村の下風呂、易国間、蛇浦漁協の3漁協が8月3日に総合福祉センターにおいて、合併仮契約書調印式を行いました。調印式には、3漁協役職員、風間浦村、青森県、系統団体合わせて約50名が出席し、富岡村長(風間浦村)立会いの下、橘組合長(JF 下風呂)、越膳組合長(JF 易国間)、大野組合長(JF 蛇浦)が仮契約書に調印しました。

また、9月25日に行われた3漁協の合併総会が承認され、その後手続きを経て2020年12月1日に新漁協が誕生しました。

今回の合併については、「漁業者の為には、合併による組織・基盤強化」が必要不可欠という組合長の強いリーダーシップにより成し遂げられました。

1. (下風呂、易国間、蛇浦漁協の合併概要)

①合併の方法	新設合併(3組合は解散)
②漁協名	風間浦漁業協同組合
③組合員数	正(157名)准(176名) 計(333名)
④役員数	理事(6名)監事(3名) 計(9名)
⑤三役	代表理事組合長 橘 和幸 副組合長理事 越膳 祐治郎 代表監事 浜辺 俊一
⑥販売取扱高	421,000千円
⑦合併日	2020年12月1日

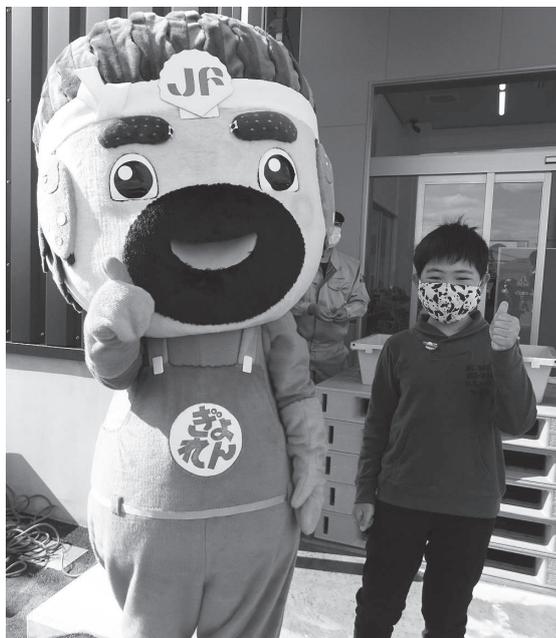


流通PRセンターオープン 一周年記念イベント開催

去る12月12日、港町にある「JF青森漁連流通PRセンター」で、オープン1周年を記念した即売会が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、来場者全員の検温や手指消毒を徹底する等、感染対策を講じたうえでの開催となりました。

会場では、活ホタテをはじめとする旬を迎えた新鮮な魚介類が通常より安値で販売されたこともあり、販売を待ちわびる多数のお客様が、午前10時の開会を前に会場外まで伸びる行列を作っていました。

12月中旬の肌寒い天候の中、来場のお客様は次々とお目当ての商品を買い求め、12時には用意した鮮魚が完売するなど、大盛況のうちにイベントは終了しました。



うおっさんとハイチーズ



お目当ての魚を買い求めるお客様



主催者挨拶をする松下会長



飛ぶように売れる貝類ブース

令和2年度「ホタテの日」記念イベント開催

青森ホタテのPRと消費拡大のため、青森県漁連とむつ湾漁業振興会は、平成10年に6月18日を「ホタテの日」と制定し、平成11年から記念イベントを開催しておりました。今年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い自粛要請を受け、イベントを延期し10月18日(日)にむつ湾漁業振興会主催、青森県漁連、青森県ほたて流通振興協会の共催により「JF青森漁連流通PRセンター」にてイベントを開催しました。

当日は活ホタテや、県内各地の魚介類・加工品などを販売、「活ホタテ10kg」などが当たる抽選会も行われ、盛況でした。



抽選会では豪華景品が振舞われた



無事に開催出来て一安心のむつ振役員達

令和2年度 陸奥湾密漁取締訓練開催

去る9月18日、平内町漁協清水川支所において、「陸奥湾密漁監視システムの効率的運用」「取締機関との更なる連携・協力体制の強化」「密漁の未然防止」を目的に「陸奥湾密漁取締訓練」が開催されました。青森海上保安部、青森県警察本部、青森警察署、青森県、漁協、関係機関等合わせて約100名が参加しました。

むつ湾漁業振興会立石会長が開会宣言、主催者・来賓挨拶後、想定内容である「平内町漁協管内での密漁者を発見」「関係機関への連絡」「陸上での密漁者の追跡」「洋上での密漁者の追跡」「清水川漁港陸上での密漁者の身柄確保」という5つの項目を想定して、青森海上保安部、青森県警察本部、青森県、青森警察署、NECフィールドディング株式会社協力の下、訓練を実施しました。



犯人確保



真剣な面持ちの漁協職員

2020年度 漁協役職員研修会 開催

去る、11月18日、青森県漁連・青森県漁業経営安定対策本部の主催による研修会を、「アラスカ」において組合長をはじめとした役職員並びに系統団体を含め80名参加の下、開催致しました。

はじめに、松下会長が「本県漁協の状況は、漁船漁業においては、主力のスルメイカ、サケの長年にわたる不漁に加え、クロマグロの資源管理により年々漁獲量が減少しております。昨年まで好調であったホタテ養殖漁業においても、付着物による減産や価格の低迷で厳しい状況にあります。また、コロナ禍が相まって魚介類は総じて価格が下落し、漁業・漁協経営に大きな影響を及ぼしております。本会では、全漁連と連携し、国や県、関係機関に対して必要な支援、対策を講じるよう強く求めて参りますので会員皆様のご協力をお願い致します。本日の研修は、第1部では昨年70年ぶりに漁業法が改正され、今年12月より施行されることを踏まえ、水産政策の改革の一つの柱である新たな資源管理の進め方について説明頂きます。第2部では、福島第一原発に起因する処理水の取扱いについて、これまで協議検討された内容について説明頂きます。新聞でも、国が海洋放出を決定したとの報道が出されましたがJFグループでは一定の理解を示しつつも、実行されれば風評被害は必至であり、海洋放出は断固反対という方針の下、全漁連、関係道県と対処して参りたいと考えております。本日の研修内容を把握していただき、各浜への周知をお願い致します」と挨拶を述べた。

つづいて、青森県農林水産部水産局水産振興課 山中課長が挨拶を述べ研修会に入りました。

研修内容は以下の通り。

【研修内容】

第一部 新たな資源管理について

説明者：水産庁 資源管理部 管理調整課 課長補佐 藤原孝浩氏
JF全漁連 漁政部 調査役 深瀬圭司氏

※共催 青森県農林水産部水産局水産振興課

第二部 福島第一原発のALPS処理水について

説明者：内閣府 原子力災害本部 廃炉・汚染水対策現地事務所
所長 生越晴茂氏



水産庁 藤原課長補佐



松下会長 挨拶



参加した漁協役職員



全漁連 深瀬調査役



内閣府 生越所長

漁船海難事故防止活動の実施

去る2020年11月18日、本会、青森海上保安部、日本漁船保険組合青森県支所、青森県の4機関は漁船海難事故がこれまで最悪のペースで増えているとして、「漁船海難多発事緊急事態」を宣言するとともに、4機関共同で漁船海難事故防止活動を実施しました。

平内町漁協小湊支所では救命胴衣の正しい着用、漁船への梯子の備え置き、漁労機器等への巻き込まれ防止について説明した後、ヒト型模型を使用しローラーへの巻き込まれ事故デモンストラーションを実施いたしました。



県内すべての小・中学校に作品の応募を依頼したところ、今年度は、コロナウイルス感染症流行により休校や学校行事の中止等の相次ぐなか、八十六の小・中学校から千七十八点の応募がありました。

この運動は昭和四十八年、ホタテガイの養殖が盛んになってきた陸奥湾をいつまでもきれいに守っていくために、青森県漁業協同組合連合会とむつ湾漁業振興会が取組み始めたものです。以来、毎年続けられており、今年で四十八回目になります。平成二十四年度からは一般社団法人青森県水産振興会が引き継ぎ、河川や湖沼も含めた県内一円の小・中学校から作品を募集することとしたものです。

第四十八回 「青森の海と川をきれいにする運動」 優秀作品表彰式



審査風景



第48回「青森の海と川をきれいにする運動」受賞者一覧

【図画 小学校】

賞名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	青森市立北小学校	2	杉 田 龍 馬
準特選	八戸市立三条小学校	6	上 野 凛
準特選	青森市立小柳小学校	3	鳥谷部 碧 生
準特選	青森市立北小学校	2	堀 桜 輔
佳 作	青森市立北小学校	2	小 野 舜 大
佳 作	青森市立北小学校	2	正部家 紘 都
佳 作	十和田市立松陽小学校	5	立 崎 唯
佳 作	青森市立北小学校	4	中 村 ゆ う
佳 作	青森市立北小学校	1	長 谷 桂 介
佳 作	八戸市立町畑小学校	1	野 上 雄 萬

第43回海の子絵画展へ出展

【図画 中学校】

賞名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	青森市立佃中学校	2	中 村 康 介
準特選	青森市立佃中学校	1	市 川 悠 太
準特選	三沢市立第一中学校	3	伊 藤 大
準特選	三沢市立第一中学校	2	三 浦 日 菜 子
佳 作	青森市立佃中学校	1	小 林 大 輝
佳 作	青森市立佃中学校	2	柴 田 心 虹
佳 作	むつ市立大平中学校	3	竹 内 綾 音
佳 作	三沢市立第一中学校	3	盛 野 愛 紗 美
佳 作	青森市立佃中学校	2	森 野 清 愛
佳 作	青森市立東中学校	1	山 口 夢 乃

【ポスター 小学校】

賞名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	青森市立戸山西小学校	6	佐 藤 風 梢
準特選	青森市立北小学校	4	蝦 名 澄 汰 朗
準特選	八戸市立桔梗野小学校	6	木 村 育 実
準特選	八戸市立是川小学校	6	高 橋 莉 咲
佳 作	大鰐町立大鰐小学校	3	葛 西 日 彩
佳 作	八戸市立白銀南小学校	5	神子澤 璃 子
佳 作	弘前市立大成小学校	5	小 堀 和 華
佳 作	八戸市立白鷗小学校	2	佐々木 葉 子
佳 作	大鰐町立大鰐小学校	5	間 形 侑 那
佳 作	むつ市立第二田名部小学校	1	松 谷 謙

【ポスター 中学校】

賞名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	八戸市立白銀南中学校	3	丸 谷 佳 乃
準特選	青森市立沖館中学校	2	岸 茉莉 乃
準特選	青森市立佃中学校	1	佐 藤 奏
準特選	八戸市立大館中学校	2	林 崎 桜
佳 作	青森市立戸山中学校	2	木 戸 崇 文
佳 作	青森市立横内中学校	1	楠 美 逸 耕
佳 作	青森市立横内中学校	1	齋 藤 虎 太 郎
佳 作	佐井村立佐井中学校	3	竹 本 翔 乃 介
佳 作	八戸市立白銀南中学校	2	中 村 奏 良
佳 作	青森市立横内中学校	2	山 田 稜 織

【作文】

賞名	題 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	きれいな海にしたい理由	青森市立橋本小学校	6	小 野 瑛 平
準特選	「きれい」とは	鶴田町立鶴田中学校	3	長 内 保 乃 楓
準特選	僕と海水浴場の思い出	むつ市立大湊中学校	2	木 谷 柗 太 郎
準特選	おじいちゃんアイデア	青森市立橋本小学校	5	松 山 明 伽 音
佳 作	他人任せにしない	青森市立橋本小学校	6	立 石 悠 人
佳 作	海のごみのせいで	青森市立橋本小学校	6	丹 代 星 羅
佳 作	運命をせおって	階上町立道仏中学校	1	天 摩 美 海
佳 作	川をよごさないために	大鰐町立大鰐小学校	6	外 崎 心 晴
佳 作	海がほくに教えてくれること	青森市立橋本小学校	6	永 澤 健 斗
佳 作	ホタテを救いたい	青森市立橋本小学校	5	濱 田 莉 央

【標語】

賞名	標 語	学 校 名	学年	氏 名
特 選	ゴミ拾いし ほたるのすめる 川目指そう	弘前市立東目屋小学校	6	吉 沢 美 桜
準特選	ゴミ拾い 海の恵みに 恩返し	おいらせ町立下田中学校	3	三 浦 陸 弥
準特選	澄んだ川 流れて海へ 美化のバトン	むつ市立脇野沢小学校	6	山 口 那 乃
準特選	青い海 潮の匂いも かおるまち	むつ市立大湊中学校	2	吉 田 風 和
準特選	透き通る 川をこの手で 守りぬく	階上町立道仏中学校	2	石 橋 華 七 子
佳 作	エコバック持ち プラへらして 海守ろう	青森市立沖館小学校	4	大 和 暖 季
佳 作	汚さない ポイ捨てしない 持ち帰る	八戸市立下長中学校	2	茅 森 哉
佳 作	だめですよ ポイすて見たら よびかけよう	青森市立北小学校	4	工 藤 百 華
佳 作	持ち帰ろう 楽しい気持ちと そのゴミ	藤崎町立常盤小学校	4	竹 内 唯
佳 作	守りたい きれいな海は 地球の命	むつ市立大湊小学校	5	中 村 心

【学校奨励賞】

作文・標語の部	青森市立橋本小学校
図画・ポスターの部	青森市立北小学校

各部門の準特選・佳作は五十音順

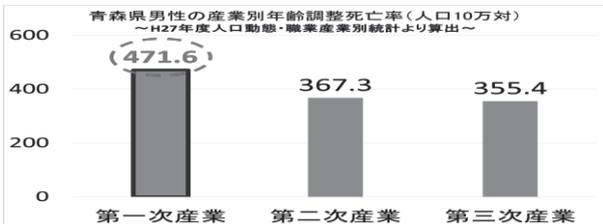
青森県は、第一次産業の皆さまの健康づくりを応援しています

青森県では、令和元年度から、県内の漁協・農協女性部との連携により、女性部員の皆様が、望ましい生活習慣や健康づくりの大切さに気づき、自らの行動変容につなげることで、そして、第一次産業就業者全体の健康づくりの機運醸成を図ることを目的として、体験型の健康セミナーの開催や生涯現役で働くご夫婦を紹介するリーフレット等の作成に取り組んでいます。

青森県の実態、ご存知ですか？

第一次産業就業者の死亡率

青森県の男性の死亡率を産業別に比較すると、第一次産業就業者の死亡率は他の産業よりも高くなっています。



第一次産業の皆さまの生活習慣

青森県の第一次産業の女性にアンケートしたところ・・・

- ①野菜が好きな人が少ない
 - ②食事の時に野菜から食べ始める人が少ない
 - ③ミルク・砂糖入りの飲料を毎日飲む人が多い
 - ④インスタントラーメンを週2回以上食べる人が多い
 - ⑤洋菓子・菓子パンを週3回以上食べる人が多い
- など、全国のデータと比較して、**肥満につながりやすい食習慣の方が多く**という結果でした。

花王株式会社調べ「生活習慣測定会結果」(令和元年)

「女性発信！農業者・漁業者の健やか力向上事業」の紹介

～令和元年度農業女子・漁業女子健やか力向上セミナー（体験型セミナー）～

- ・青森県信漁連の協力を得て、体験型セミナーを開催。
- ・漁協女性組織協議会の方々にご参加いただきました。
- ・参加者は、楽しみながらチェックした健康度測定の結果や健康講話・運動体験・試食をとおり、生活習慣改善の必要性を認識されていました。

＜参加者の感想＞

- ・体重を減らしたい、内臓脂肪を減らしたい。
- ・肥満解消・筋力アップのため運動したい。
- ・夫と一緒に運動したい。
- ・家族に禁煙、健診受診を勧めたい。



骨密度測定



体組成測定



運動体験



血圧測定



ロコモ度測定



中路先生による健康講話
「健康と若さ・美しさを保つ秘訣」

～漁協・農協の女性部員向けに健康づくりの情報発信～

- ・県内在住の生涯現役で漁業・農業に従事する「健やか夫婦」を身近な健康づくりの実践例として紹介するリーフレットを作成。
- ・漁業からは、風間浦村の葛西さんご夫妻、蓬田村の大宮さんご夫妻をご紹介します。



健やかレシピ：エネルギーや糖質・塩分など健康に配慮した間食レシピ。
「なべっこだんご」や「べこもち」など、青森県の昔ながらのおやつと新たなおやつを6品ずつ掲載。
健やかレシピ集
健康に配慮した間食集

リーフレット、健やかレシピ集は青森県ホームページをご覧ください！

女性発信！農業者・漁業者

コロナ禍の今大切なこと：健診・検診受診，バランスの良い食事，適度な運動，禁煙・受動喫煙防止

青森県健康福祉部がん・生活習慣病対策課

第48回
「青森の海と川をきれいにする運動」優秀作品

《図画の部》「小学校」

特選
(全国絵画展出展)



青森市立北小学校
2年 杉田 龍馬 さん

《図画の部》「中学校」

特選
(全国絵画展出展)



青森市立佃中学校
2年 中村 康介 さん

《ポスターの部》「小学校」

特選



青森市立戸山西小学校
6年 佐藤 風梢 さん

《ポスターの部》「中学校」

特選



八戸市立白銀南中学校
3年 丸谷 佳乃 さん

令和3年1月10日

〈発行〉青森県漁業協同組合連合会 青森市安方一丁目1番地32号 TEL017-722-4211(代)
〈印刷〉ワタナベサービス株式会社